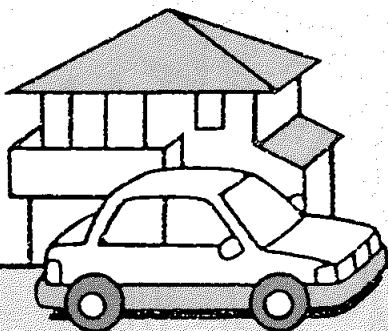


お出かけ前のチェック	8
お子さまを乗せるときの気くばり	10
安全・快適ドライブのために	12
走行中、異常に気づいたら	14
駐停車するときは	15
オートマチック車の正しい運転のしかた	16
こんな点にも注意を	22
ターボ車の取り扱いチェックポイント	24

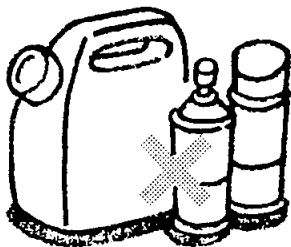
お出かけ前のチェック

シートベルトを正しく着用してください。



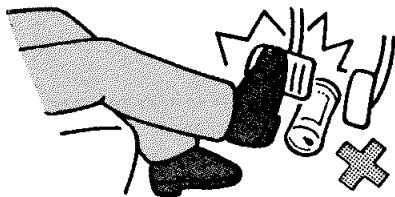
燃料がはいった容器やスプレー缶などは積まないでください。

●万一のとき引火するおそれがあり危険です。



運転席足元に物を置かないでください。

●空缶などの物を置くとブレーキペダルの下にはさまりブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルがもどらなくなるなどのおそれがあり危険です。



指定以外の燃料を補給しないでください。

●ガソリン車には無鉛ガソリンを補給してください。有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、軽油を補給すると、エンジンなどに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。

●3000車、2500車は無鉛プレミアムガソリン(無鉛ハイオク)仕様車です。ガソリンは無鉛プレミアムガソリンを使用してください。

万一、無鉛プレミアムガソリンが入手できないときに無鉛レギュラーガソリンを使用されても、通常走行には支障ありませんが、エンジン性能を十分に発揮できないことがあります。

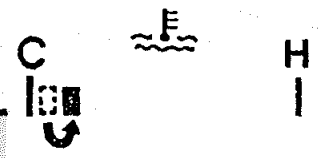
●ディーゼル車には軽油を補給してください。ガソリンや灯油を補給するとエンジンなどに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧はときどき点検してください。

●タイヤ空気圧が極端に低い状態のまま走行しないでください。パースト(破裂)など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

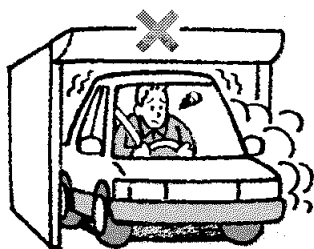
水温計の表示(指針)が動き出すまでは、
極端にアクセルペダルを
あおらないでください。

- 暖機不足の状態では触媒装置が焼損するおそれがあります。(ガソリン車)
- 暖機は水温計の表示(指針)が動き出す程度で十分です。

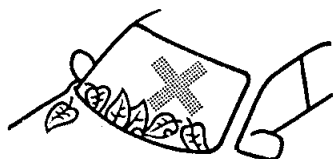


排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素(CO)が含まれているため、排気ガスを吸い込むとガス中毒になるおそれがあり危険です。

- 換気が悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。とくに車庫内など囲まれた場所では、排気ガスが充満し、ガス中毒になるおそれがあり危険です。



- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴やき裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は、必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、ガス中毒になるおそれがあり危険です。
- フロントガラス前部の外気取り入れ口に雪、落ち葉などがついていいるときは取り除いてください。外気が導入できず、車内の換気が十分でなくなるおそれがあります。



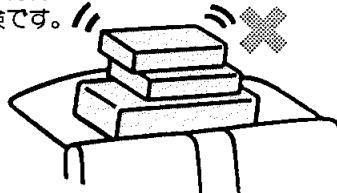
- トランクが閉まっていることを確認してください。開けたまま走行すると、排気ガスが車内に侵入するおそれがあり危険です。
- 車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら、すべての窓を全開にしたり、空調の内外気切り替えを外気導入にしてファンを強にし、新鮮な外気を車内にいれてください。また、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま放置すると、排気ガスによるガス中毒のおそれがあり危険です。

次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくとも走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

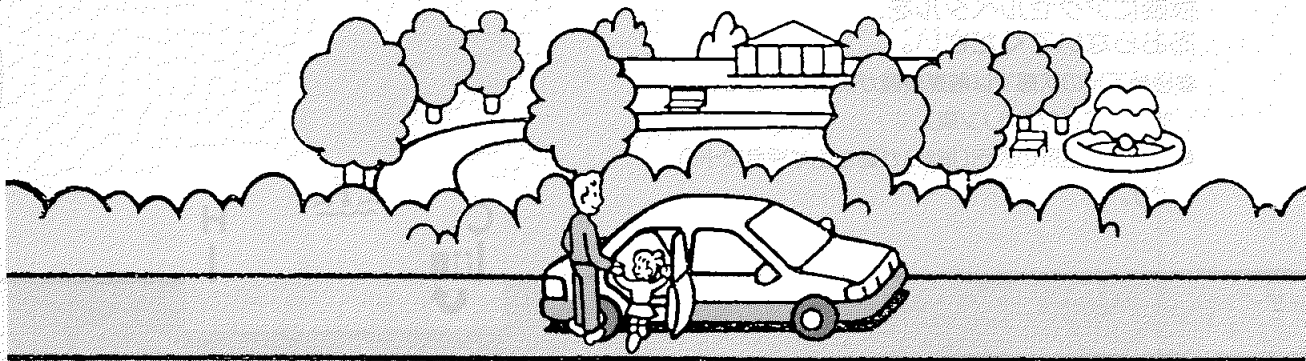
- いつもと違う音や臭いや振動がするとき
- ステアリング操作に異常を感じたとき
- ブレーキ液が不足しているとき
- 地面に油の漏れたあとが残っているとき

助手席や後席に荷物を積み重ねないでください。

- ブレーキをかけたときなどに荷物が移動し、荷物を損傷したり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背もたれ後方のパッケージトレイの上に荷物を置かないでください。急なブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、ケガをするおそれがあり危険です。

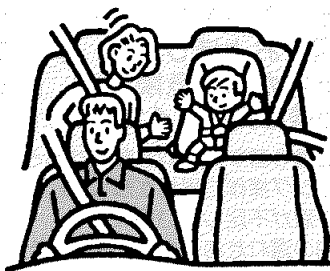


お子さまを乗せるときの気くばり



お子さまは
リヤシートにすわらせてください。

- 助手席ではお子さまの動作が気になり運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置にふれて思いがけない事故につながるおそれがあります。また、万一の事故の場合、リヤシートのほうが安全と言われています。
- チャイルドプロテクターをお使いください。(27ページ参照)



お子さまにもシートベルトを
必ず着用させてください。

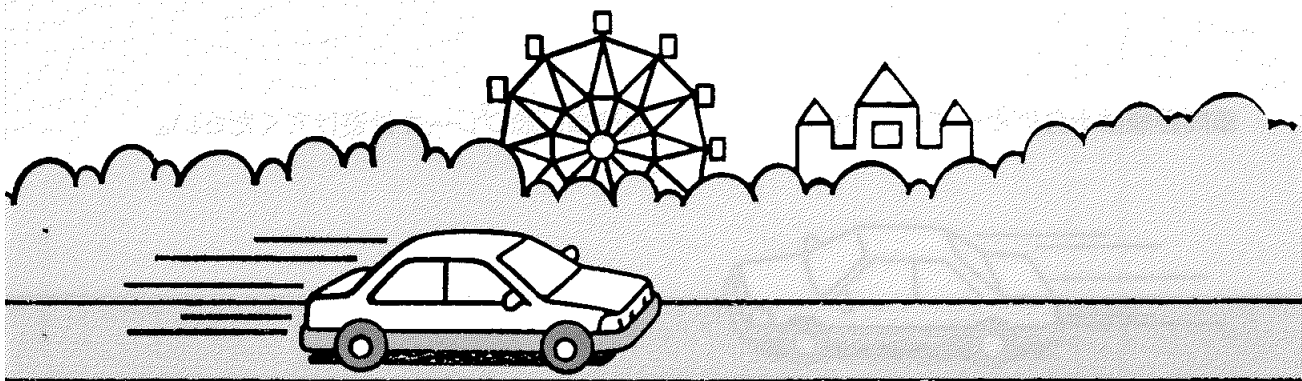
- ひざの上でお子さまを抱えていても、衝突したとき十分に支えることができずお子さまがケガをするおそれがあり危険です。
- リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。
- シートベルトが首やあごに当たる場合や、腰骨にかからないような小さなお子さまはチャイルドシート、ジュニアシートを使用してください。通常のシートベルトでは、衝突のとき腹部などに強い圧迫をうけケガをするおそれがあり危険です。また、ひとりすわりのできない小さなお子さまはベビーシートを使用してください。なお、ベビーシートやチャイルドシート、ジュニアシートについてはトヨタ販売店にご相談ください。

〈選択の目安〉

	体重 (kg)	身長 (cm)	参考年齢
ベビーシート	～10未満	75以下	～12カ月
チャイルドシート	7～18未満	105以下	6カ月～4才
ジュニアシート	15～32以下	135以下	4才～10才

- ベビーシートやチャイルドシート、ジュニアシートを取りつけたときは、確実に取り付けられていることを確認してください。取り付け方は、それぞれの商品に付属の取扱書をご覧ください。
- やむをえず、助手席に乗せるときも、必ずシートベルトを着用するかベビーシートやチャイルドシート、ジュニアシートを使用してください。

乗車時のお子さまの安全



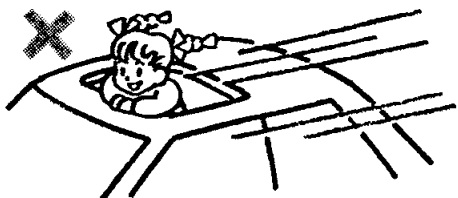
ドア、ウィンドウ、ルーフなどは
お子さまに操作させないでください。

- 閉めるとき手や頭などをはさんだり思わぬケガをするおそれがあり危険です。
- ウィンドウロックスイッチもあわせてお使いください。(31 ページ参照)



窓やルーフなどから
手や顔を出さないでください。

- 車外の物などに当たったり、急ブレーキ時に思わぬケガをするおそれがあり危険です。



車から離れるときは、
お子さまを車内に残さないでください。

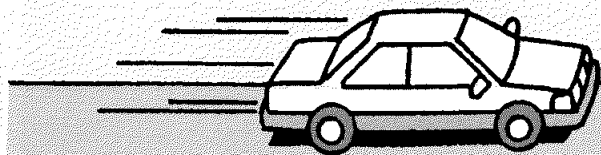
- 炎天下の車内は高温となり熱射病などのおそれがあり危険です。
- いたずらなどにより思わぬ事故につながるおそれがあります。



安全・快適ドライブのために

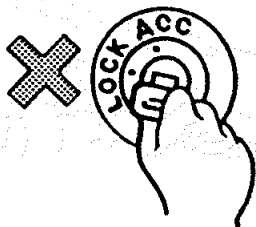
車間距離は十分にとってください。

急発進、急ブレーキは避けてください。



走行中はエンジンを切らないでください。

- エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- キーをLOCK位置にするとキーが抜けることがあります。キーが抜けるとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、事故につながるおそれがあります。



ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けしないでください。

- オイル潤滑不良を起こし、パワーステアリングポンプを損傷するおそれがあります。

下り坂ではエンジンブレーキを併用してください。

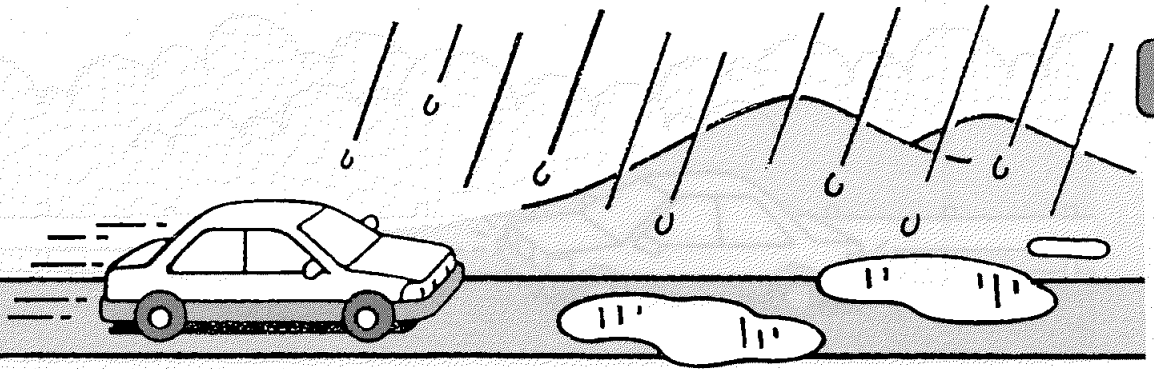
- ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキ力のことです。低速ギヤにいれるほどよく効きます。1速ずつシフトダウンしてください。

ぬれた路面や積雪路、凍結路などのすべりやすい路面ではとくに慎重に走行してください。

- スピードをひかえめに運転し、急ブレーキや急激なエンジンブレーキは避けてください。
- クルーズコントロールは使用しないでください。
- 雪道走行の項目もご覧ください。
(144 ページ参照)

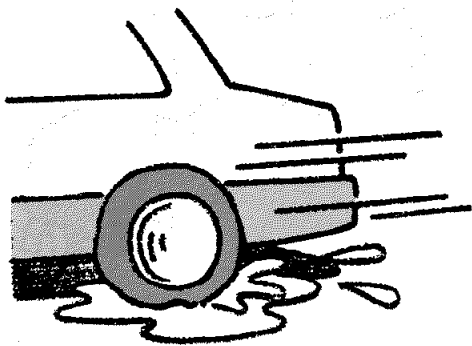
とくに雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいためご注意ください。

雨に降られる時は、ブレーキを踏む



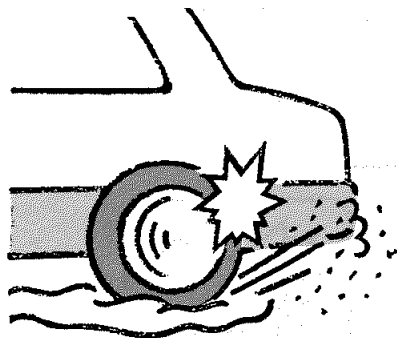
洗車後や水たまり走行後は
ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキ
が正常に働くことを確認してください。

- 効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。
- ぬれたブレーキは効きが悪かったり、また、ぬれていない片だけが効いてハンドルをとられるおそれがあります。



スタック（立ち往生）したときなどタイヤ
を高速で回転させないでください。

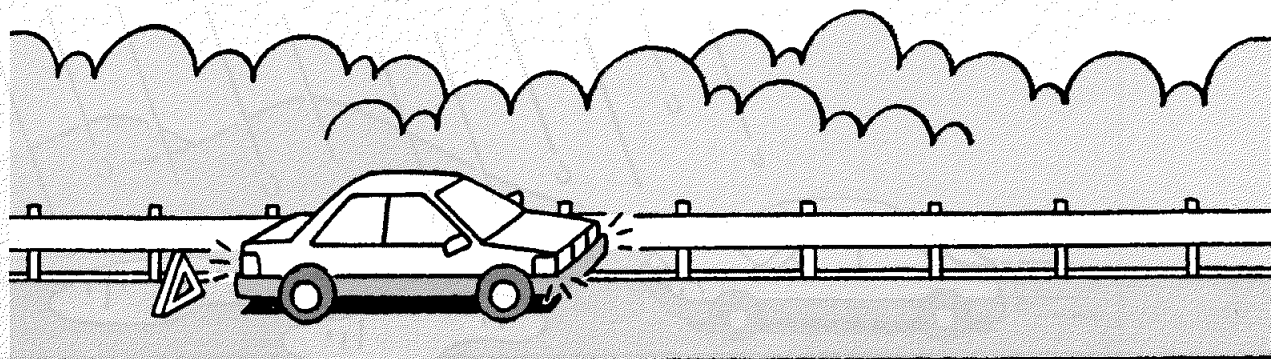
- タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあります。



ブレーキペダルに足をのせたまま
走行しないでください。

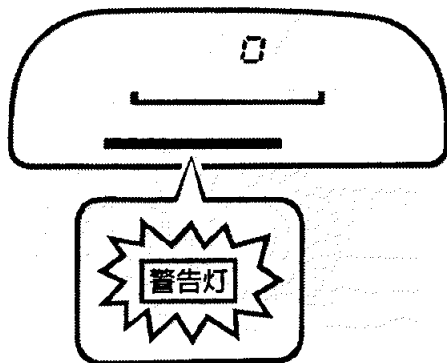
- ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

走行中、異常に気づいたら




警告灯が点灯したら、安全な場所に停車し、ただちに処置してください。

- 点灯したまま走行すると思わぬ事故を引き起こしたり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。(152 ページ参照)



走行中にパンクやバースト（破裂）しても、あわてず対応してください。

- ハンドルをしっかり持ち徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。
- 急ブレーキや急ハンドルは車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

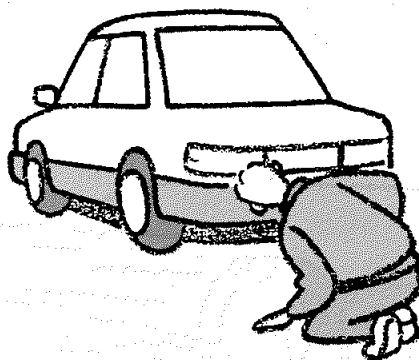
 アドバイス

次のようなときはパンクやバーストが考えられます。

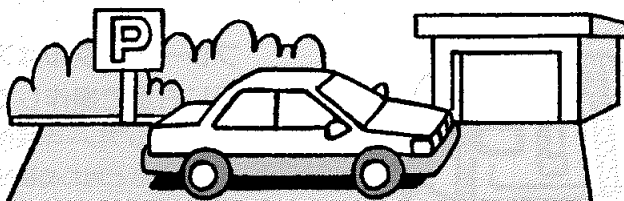
- ハンドルがとられるとき
- 異常な振動があるとき
- 車両が異常に傾いたとき

車体床下に強い衝撃を受けたら、すぐに安全な場所に車を止めて下まわりを点検してください。

- ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などにより思わぬ事故につながるおそれがあります。漏れや損傷などが見つかった場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店などにご連絡ください。



駐停車するとき

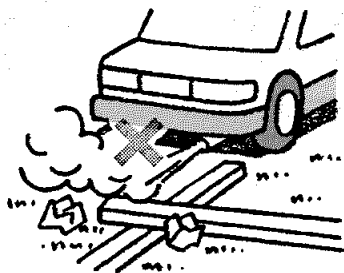


車から離れるときは、
パーキングブレーキをかけ
必ずエンジンを止め施錠してください。

- 無人で車が動き出したり、車両盗難のおそれがあります。また、施錠していても車内に貴重品を置いたままにしないでください。

可燃物付近に車を止めたりしないで
ください。

- 車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると火災になるおそれがあり危険です。
- 木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を 30 cm 以上離して止めてください。すき間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあり危険です。
- 枯れ草や紙くずなど燃えやすいものの上を走行したり、車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。



仮眠するときは、
必ずエンジンを止めてください。

- 無意識にチェンジレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあり危険です。
- 排気管が損傷していたり、風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に侵入し、ガス中毒になるおそれがあり危険です。



車が雪でおおわれたときは、車の
まわりから雪を取り除いてください。

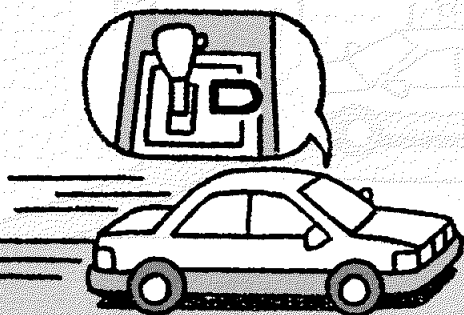
- 車のまわりにたまった排気ガスが車内に侵入するおそれがあり危険です。

車を移動するときは、
必ずエンジンを始動してください。

- 坂道を利用しての移動は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンがかかっているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

オートマチック車の正しい運転のしかた

69 ページの「オートマチックトランスミッション」もあわせてお読みください。



ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。

- 左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

オートマチック車の特性

■クリーブ現象

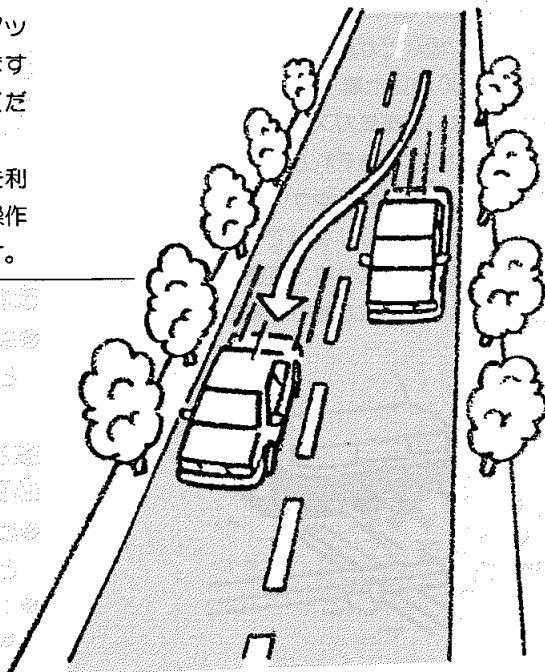
エンジンがかかっているとき、チェンジレバーが **P/N** 以外の位置にあると、動力が繋がった状態になりアクセルペダルを踏まなくてもゆつくりと動き出す現象をいいます。

- 停車中は、平坦路であっても車が動かないように、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジンの回転が上がり（アイドルアップ）、クリーブ現象が強くなることがありますので、ブレーキペダルはしっかりと踏んでください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリーブ現象を利用し、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。

■キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱい踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。これをキックダウンといいます。

- 追い越し時の急加速や高速道路での合流が楽に行えます。
- すべりやすい路面やカーブ走行中では、急激なアクセルペダルの操作はさけてください。



運転のしかた

エンジンをかけるまえに

1

正しい運転姿勢をとる。

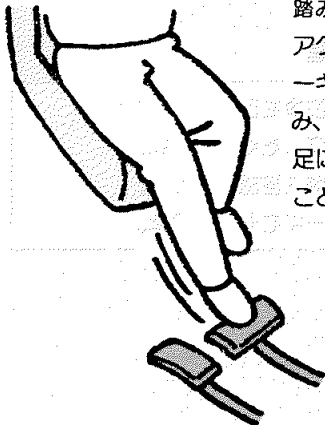
ペダルが確実に踏み、ハンドル操作が案にできるように、シートの位置を調整してください。

2

アクセルペダルの位置を確認。

3

ブレーキペダルの位置を右足で確認。



踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認し、足におぼえさせておくことが重要です。

エンジン始動

詳しくは 67 ページの「エンジンのかけ方」を参照してください。

1

パーキングブレーキを確認。

2

Pの位置を目で確認。

Nの位置でも始動できますが、安全のため車輪が固定されるPの位置で行ってください。

3

ブレーキペダルを右足で踏む。

4

エンジン始動。

発 進

1

ブレーキペダルを右足でしっかり踏んだまま。

チェンジレバーを①や②にいれると、クリーブ現象により、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。発進時のレバー操作は、ブレーキペダルをしっかり踏み、車が動かないようにして行ってください。

エンジン始動直後やエアコン作動時などアイドルアップしているときは、車が動こうとする力がとくに強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

2

チェンジレバーを前進は①、後退は②にいれる。



注意

レバー操作は、絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

3

チェンジレバーの位置を目で確認。

4

パーキングブレーキをもどす。

5

ブレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルをゆっくり踏み加速。

マニュアル車では、発進時のスピード調節を半クラッチ操作とアクセル操作を併用して行いますが、オートマチック車では、アクセル操作のみで行いますのでアクセル操作は慎重に行ってください。

■急な坂道の発進

チェンジレバーの位置を目で確認したら、

- まずアクセルペダルをゆっくり踏み、
- 車が動き出す感触を確認してから、
- パーキングブレーキをもどし発進。

運転のしかた

走行

通常走行

チェンジレバーを①のまま走行。

アクセルとブレーキの操作だけで、加速・減速ができます。

急加速

アクセルペダルをいっぱい踏み込む。

キックダウンし、急加速できます。

■上り坂をなめらかに走るには

上り坂でスピードを保つためにアクセルペダルを踏み込んでいくと、意に反してキックダウンし、急にエンジン回転が上がる場合があります。このようなときは、あらかじめ②にしておくと、エンジン回転数の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

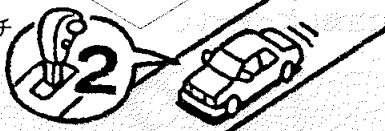
下り坂走行

エンジンブレーキを併用

下り坂を①のまま走行すると、エンジンブレーキの効きが弱くスピードが出すぎてしまうことがあります。このようなときに、フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。

チェンジレバーを②にいて、エンジンブレーキを使います。

O/DスイッチをOFFにすることによっても



軽いエンジンブレーキが得られます。高速道路の長い下り坂などで使うと有効です。



アドバイス

クルーズコントロールを使用して定速走行しているときは、チェンジレバーを②に換える、または、O/DスイッチをOFFにする、のいずれの操作を行ってもクルーズコントロールが解除されないため、エンジンブレーキは効きません。減速が必要なときの操作方法は74ページをご覧ください。

急な下り坂

より強いエンジンブレーキが必要な場合は③にいれる。

各シフト位置での速度限界

エンジンを過回転させないために、各シフト位置での速度が下表の数値をこえないようにしてください。

(単位: km/h)

エンジン シフト位置	2JZ-GE	1JZ-GTE	1JZ-GE	1G-FE	4S-FE	2L-TE
L	65	70	55	60	65	50
2	110	120	105	110	110	90



注意

走行中は①にしないでください。チェンジレバーを③にすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。また③にしたまま走行するとトランスミッションの故障の原因となるおそれがあります。

停車

1

①のままブレーキペダルをしっかりと踏んでおく。

エアコンは温度変化により断続的に作動します。作動中は自動的にアイドルアップし、クリーブ現象が強くなりますので、車が動き出さないように、とくに注意してください。

2

必要に応じてパーキングブレーキをかける。

急な上り坂での停車はクリーブ現象で前へ進もうとする力よりも、車が後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、しっかりとパーキングブレーキをかけてください。

停車時間が長くなりそうなときは、チェンジレバーを②または③にいれる。

■停車中の空ふかしは禁物

万一、②③以外にはいていると思わぬ急発進の原因になります。

■停車後の再発進

チェンジレバーが①の位置にあることをしっかり確認してから、発進してください。

駐車

1

車を完全に止める。

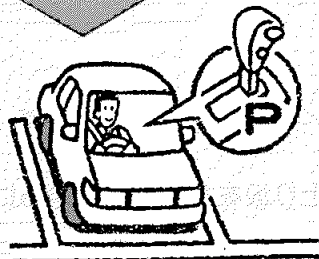
2

ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキを確実にかける。

3

チェンジレバーを②にいれる。

②では車輪が固定されるため、車が動き出す心配がなく安全です。駐車時には、必ずチェンジレバーが②の位置にあることを確認してください。

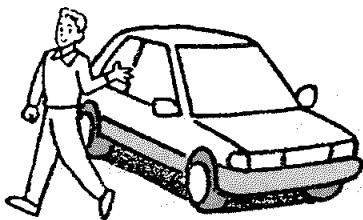


4

エンジンを切る。

車を離れるときは必ずエンジンを切ってください。エンジンをかけたままにしておくと、万一、チェンジレバーが②以外にはいていた場合、クリーブ現象で車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに、誤ってアクセルペダルを踏み急発進するおそれがあります。

- 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしましょう。
- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるよう注意してください。
- 少し後退したあとなどはRにいられたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとはずぐNにもどすよう習慣づけましょう。
- 切り返しなどでDからR、RからDと何度もレバー操作をするときは、そのつどブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。また、シフト位置も忘れずに確認してください。
- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でDのままアクセルをふかしながら止まってはいけません。トランスミッションが過熱し、故障の原因になります。
- 車輪が完全に止まらないうちに、チェンジレバーをPに入れるのはやめてください。無理な力がかかり、トランスミッションをいためることがあります。



シフトロックシステム

よく理解して正しい操作にお役立てください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でなければPからレバー操作できません。

- エンジンスイッチが、ACCまたはLOCKのときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
- チェンジレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。

P以外ではエンジンスイッチからキーは抜けません。

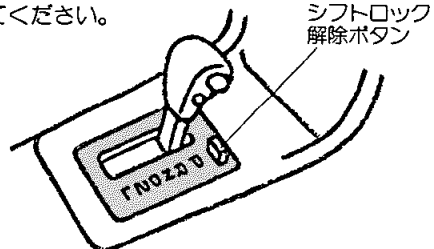
- エンジンスイッチからキーを抜くときは、チェンジレバーをPに入れてください。
(P以外ではキーをACCからLOCKにまわ
せません。)

Rに入れるとブザーが鳴ります。

- ブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。
- 車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。

万一、Pからレバー操作できないときは

- ブレーキペダルを踏んだ状態で、シフトロック解除ボタンを押すとレバー操作できます。
- シフトロックシステム等の故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。



こんな点にも注意を

違法改造は絶対にしないでください。

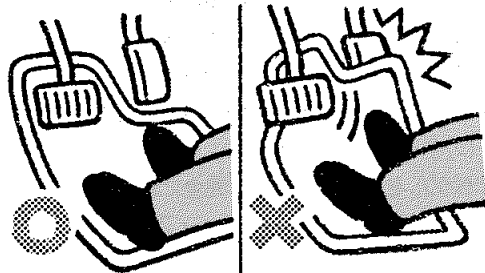
- 車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トヨタが運輸省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。



- SRSエアバッグ付き車は、ハンドルの取りはずしや他の車両への取りつけは絶対にしないでください。SRSエアバッグを不適切にあつかうと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみケガをするおそれがあり危険です。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - タイヤ、ディスクホイール、ホイール取り付けナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
 - 電装品、無線機などの取り付け、取りはずし。
故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

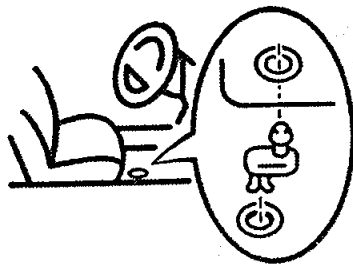
車に合わないフロアマットは使用しないでください。

- フロアマットはアクセルペダルに引っかからないよう、車に合ったものを正しく敷いてください。また、ずれないように固定クリップなどで固定してください。アクセルペダルをおおったり、重ねて敷くとアクセル操作のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



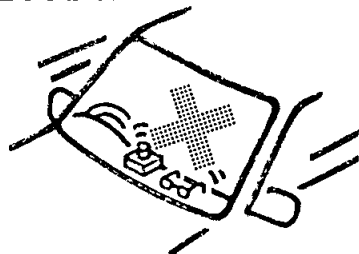
↑ アドバイス

カーベットの穴は、トヨタ純正フロアマットのずれを防止するために使用する固定クリップ取り付け用です。



インストルメントパネルやダッシュボードの上に物を置いたまま走行しないでください。

- 運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に動いて安全運転のさまたげになるおそれがあります。また、万一の事故の場合には、ケガの原因となるおそれがあります。



イノホホでツェモノ燃り類の車ホ

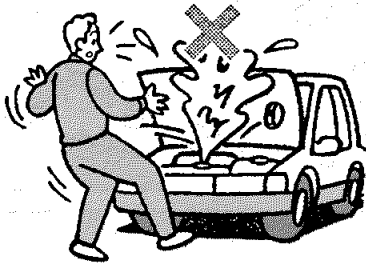
- 灰皿を使用したあとは、マッチ、タバコの火を確実に消し、必ず閉めておいてください。開けたまま放置すると火災になるおそれがあり危険です。



- ハンドフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者は走行中に使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

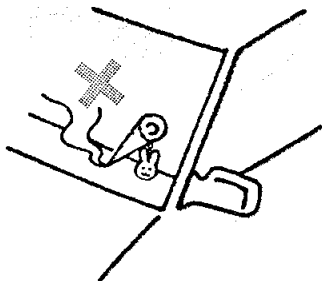


- ラジエーターや補助タンクが熱いときは、キャップをはずさないでください。蒸気や熱湯が吹き出し危険です。



- クラッチペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に長い時間、半クラッチ操作を行わないでください。クラッチが早く摩耗したり、過熱し思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 窓ガラスなどには吸盤をつけないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災になるおそれがあり危険です。



ターボ車の取り扱いチェックポイント

ターボ装置は、エンジンに大量の空気を過給してエンジンからより大きな馬力を引き出すもので、非常に精密に作られています。

ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

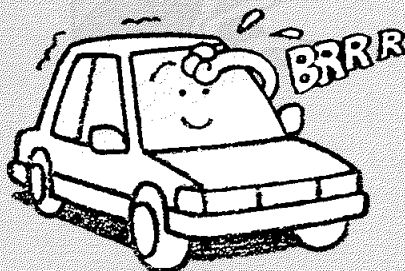
1

高速走行・登坂走行直後はエンジンを止めないでください。

- 必ずアイドル運転を行い、ターボ装置を冷却してからエンジンを停止してください。アイドル運転を行わないとターボ装置の故障の原因になります。

エンジン停止前のアイドル運転時間

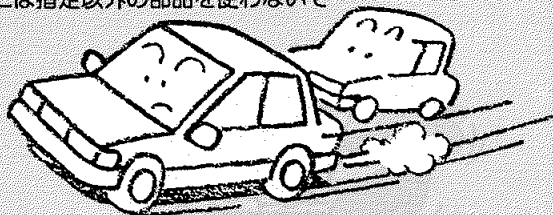
運 転 状 況		アイドル運転時間
市街地、郊外などの一般走行		必要なし
高速走行	約 80 km/h 定速	約 20 秒
	約 100 km/h 定速	約 1 分
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびレース場など 100 km/h 以上の連続走行		約 2 分



2

エンジンが冷えているときは空ふかしや急加速は絶対に行わないでください。

- マフラー、プラグ(ガソリン車のみ)などには指定以外の部品を使わないでください。ターボ装置の故障の原因になります。



3

定期的なオイル交換を必ず行ってください。

- エンジンオイルは必ず 5,000 km ごと(ただし 6 か月をこえないこと)オイルフィルターは必ず 10,000 km ごとに交換してください。

ターボ装置は、毎分 10 数万回転におよぶ高回転、700℃ 以上の高温下で使われ、その潤滑と冷却はエンジンオイルで行われています。したがって定められた期間でエンジンオイル、オイルフィルターを交換しないと、劣化したエンジンオイルにより、ターボ軸受部の固着、異音の発生など故障の原因となります。

5000km

6か月